

＜今日の説教のポイント 使徒言行録9章1～19節＞

パウロに訪れた人生の大転換は独特。しかし、その出来事を見て行くとき、それは私たちにも与えられた恵みの大転換であることが分かる！

①信仰は困った時の神頼みか？ パウロの場合は違う！

「信仰なんて弱い人間が持つもの」、そう思っている人が多いと思います。しかし、大伝道者パウロがイエス・キリストを信じる者となった理由は違います。彼は自分に自信を持って生きていました。正しいと信じる道を突き進んでいました。ですから、信仰を必要とする要因がパウロの中に先にあったのではありません。自信に満ちていたパウロを神様が打倒し、とらえられたのです！ 今日箇所です。

②絶望に陥った時は最悪の時か？ 否、新しい人生の戸口に立つ時！

神様はパウロの目を見えなくされます。そのために彼は暗黒の中で3日間を過ごすことになりました。神様はひどいお方でしょうか？ そうではありません。パウロはこの間を通して、自分の小ささ、傲慢さ、過ち多さを深く認識することができたのです。それは災いの時ではなく、本当の神様に出会え、その神様と共に生きるための、言わば、「新しい人生に入る戸口」に立たせてもらえる恵みの時となったのです。

③用いられる私たち。しかし、それは神様が用いられる仕方です！

神様はアナニヤをパウロのもとに遣わされました。アナニヤははじめ嫌がりましたが、神様の求めを受け入れて出かけ、パウロの回心を導く大きな務めを果たしたのです。私たちが神様によって何のために、どのように用いられるかは分かりません。自分で自分の道を決めるのではなく、自分を用いられる神様の道が必ず用意されていることを思いながら生きられる。信仰者が持てるなんと幸いな恵みの人生観でしょう！

④見えていた？ → 見えなくなった？ → 本当に見えるようになった！

パウロは元通り見えるようになりました(18)。しかし、肉体の目が回復した以上に、心の目が開いて、本当に大事なこと、真の神様が救い主イエス・キリストをお与え下さったことが見えるようになったのです！ そこからパウロの新しい人生が始まったのです。神様は、私たちの心の目も開くように、この聖書をそして教会をお与え下さったのです。